

# 「家がいいね」 第37号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007. 6. 11

梅雨の前線が北上を窺っている時期になりました。雨の日の訪問看護や訪問診療は雨具で行動が制限されて困ります。ですが訪問先では、「こんな雨の日に」と言われながら喜ばれます。思いを巡らしますと、雨の日の通院は不自由な身では大変なのです。わが身のマイナスが、他の人のプラスに自然に転じるのなら、雨もまた楽しみです。

## 時間を奉納する

陸(おか)曳きも終わり、お木曳きも内宮領の川曳きを残すのみです。私の町内も、6月2日が本曳きでした。2年目は写真のようにエンヤ曳きで外宮に曳き込みました。一瞬のバランスに気を使つと同時に、それに至る準備には大変な時間が費やされています。

最後に外宮の貯木池に御用材を納めて奉仕は終るのですが、全て人力で済ませるために、工夫が凝らされています。木の年輪が人の知恵では早められないように、これらも非効率で、ひたすら進行を待つ事が必要です。前回に「大切なものを残す二通りの方法があります。風雪にも耐える強固な形に作るか、壊れるものとしても守り方を次の世代に伝えてゆくか。先達は後の道を自然に選びました」と書きましたが、お金で買えない「私達の時間」そのものを奉納しているのだと思えました。

そして「20年後は(この場に)おらんやろなあ」と挨拶代わりに交わされる言葉に、人間のいのちの限りを思う響きを感じます。次を育てるのも、この先20年を見据えなければならぬのです。



「人生の実力」講演会のことばから  
人生の実力は「まさか」の時に試されます。

まさか思い通りにならない事に直面し、生きてきたようにしか死ねない。でも、感謝・ねぎらい・謝罪や、人生の振り返りが出来る人は最期でも意外な実力を示す。家族など人間関係を抱えつつ、「まさか」の坂を登るのです。



詩「ことばのとおりに」 谷川俊太郎

読むだけでは美しいことばもただの文字  
しゃべるだけではりっぱなことばもただの音  
ことばのとおりに行つとき  
ことばのとおりに生きるとき

あなたはほんとのあなたになれる  
私はほんとの私になれる

波紋のように「ころ」にひろがる  
かみなりのように「ころ」をゆるがす  
「ころ」から生まれて「ころ」にたく  
ことばの力は「ころ」の力

多すぎることばはさわがしい  
「ころ」の底の静けさが「ことば」のふるゆ

若い医師の在宅医療の研修について

市立伊勢総合病院の2年目の研修医の先生が、交代で各月後半の2週間、訪問に同行します。新しい視野が広がる事を期待して、この先5ヶ月間の御協力をよろしくお願い申し上げます。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
mail [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>